

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上戸祭 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 79 人

② 算数 79 人

5 留意事項

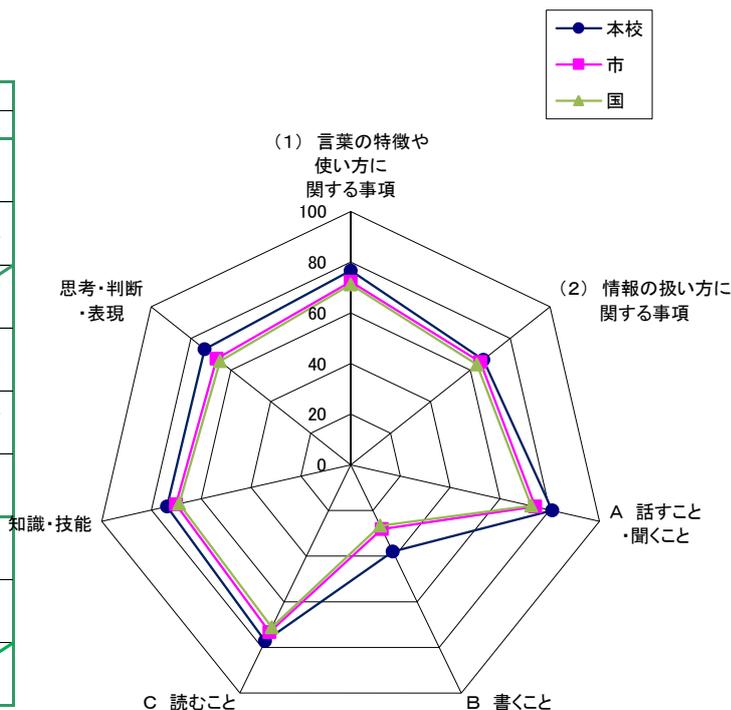
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上戸祭小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	76.7	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	66.5	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	81.0	74.2	72.6
	B 書くこと	38.0	28.2	26.7
	C 読むこと	77.2	73.3	71.2
観点	知識・技能	73.8	70.2	68.9
	思考・判断・表現	73.2	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

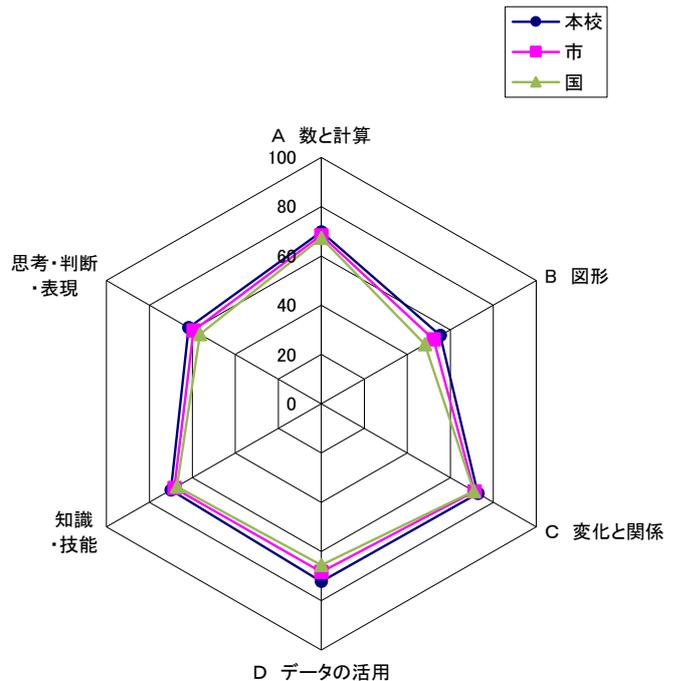
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○領域の平均正答率は、76.7%で、市の平均を4.4ポイント上回っている。</p> <p>○日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる設問の正答率は、68.4%で、市の平均を12ポイント上回っている。</p> <p>●送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかの設問では、正答率は93.7%と高いものの、市の平均をやや下回った。</p>	<p>・学習や生活を通して、文章を書く際に既習の漢字を必ず書くように意識させたり、漢字の反復練習や確認テストを行ったりしながら定着を図る。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>○領域の平均正答率は、66.5%で、市の平均を1.5ポイント上回っている。</p> <p>○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し合うことができるかどうかをみる設問では、67.1%で市の平均より2.8ポイント上回っている。</p>	<p>・文章や資料を読み、目的に応じて情報を整理し活用する活動を意図的に取り入れる。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>○領域の平均正答率は、81.0%で、市の平均を6.8ポイント上回っている。</p> <p>○全ての設問において、正答率は市の平均を上回っている。特に、質問した理由を答える設問の正答率は、84.8%で、市の平均を9.8ポイント上回っている。</p>	<p>・今後も互いの立場や意図を明確にしながら話し合う活動を計画的に取り入れる。</p> <p>・話し合いの中で、自分の考えを相手にしっかり伝えたり、自分と比較しながら相手の話を聞いたりする力を養う。</p>
B 書くこと	<p>○領域の平均正答率は、38.0%で、市の平均を9.8ポイント上回っている。</p> <p>○文章の要点を理解して、条件の字数に合わせて書くことができている。</p> <p>●たくさんの情報から、必要な部分をもれなく取捨選択してまとめることには、まだ課題が見られる。</p>	<p>・今後も、複数の条件に合わせて書く活動を多く取り入れていく。</p> <p>・グラフや説明的文章など、様々な形態の情報源から分かることを読み取る学習を、他教科（特に社会等）でも意図的に取り入れるようにする。</p>
C 読むこと	<p>○領域の平均正答率は、77.2%で、市の平均を3.9ポイント上回っている。</p> <p>○目的を意識した要約ができるかどうかをみる設問の正答率は、98.7%と高いうえに、市の平均を8.1ポイント上回った。</p> <p>●目的に応じて必要な情報を見付ける設問に課題が見られた。</p>	<p>・大切な情報に線を引くなどして、必要な情報を見付けながら文章を読む力を養う。</p> <p>・目的を意識して文章と資料を結び付けながら読み取る活動を意図的に取り入れる。</p> <p>・読書活動を積極的に取り入れ、文章に慣れ親しむ。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.8	68.4	67.3
	B 図形	55.4	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	72.8	71.2	70.9
	D データの活用	72.2	68.3	65.5
観点	知識・技能	70.0	68.4	67.2
	思考・判断・表現	61.8	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○領域の平均正答率は、69.8%で、市の平均より1.4ポイント高い。</p> <p>●小数の加法や乗法を用いて、式や言葉を使って説明する設問の正答率は、54.4%で、市の平均より4.3ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、ドリルやプリント・AI型個別ドリルなどで、計算の練習に取り組み、基礎学力の定着を図る。 生活経験に根ざした身近な問題に取り組み、理解させることで教科としての有用性を実感させる。 他教科との関連を図りながら理由について数や言葉を使って説明する活動を多く取り入れる。
B 図形	<p>○領域の平均正答率は55.4%で、市の平均より3.2ポイント高い。</p> <p>○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係から、その大小を言葉や数を用いて記述する設問では、正答率が43.0%で、市の平均より10.5ポイント高い。</p> <p>●正三角形の意味や性質についての理解を問う設問では、市の平均より2ポイント上回っているものの、正答率が26.6%と課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の操作やICTの活用などを取り入れ、図形のもつ特徴を視覚的に理解できるようにする。 図形の面積や対称な図形の学習では、なぜそのような考え方をしたのかなど、記述したり説明したりする場面を多く取り入れることで理解度を高める。
C 変化と関係	<p>○領域の平均正答率は72.8%で、市の平均より1.6ポイント高い。</p> <p>○二つの数量についての表から変化の特徴を読み取る設問では、正答率が96.2%で、市の平均よりも3.4ポイント高い。</p> <p>○百分率で表された割合についての設問の正答率は、48.1%で、市の平均を0.2ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学習だけでなく他教科でも割合を取り入れた場面を増やして活用の幅を広げるとともに、割合について慣れ親しませる。 百分率や歩合の数量的な関係を確認したり、問題文から基準量と比較量を見極め、式に表す活動を行ったりすることで学習内容の定着を図っていく。また、日常生活の場面から割合を使った活動を取り入れることでその有用性に気付かせる。
D データの活用	<p>○領域の平均正答率は、72.2%で、市の平均より3.9ポイント高い。</p> <p>○複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み取り、その違いを言葉や数で説明する設問では、正答率が65.8%で、市の平均より6.1ポイント高い。</p> <p>●二次元の表から条件を読み取る設問の正答率は65.8%で、市の平均より1.6ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 記述式の問題では、無回答の割合が7.6%であった。題意を的確に捉えられるよう、着目するポイントを焦点化し、そのための発問を工夫したり、児童が問題解決をする場面の中で、説明する学習を多く取り入れたりする。また、他教科でも数や言葉を使って文章表現する活動を多く取り入れる。

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(10)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問に対する肯定割合は86.1%で県の割合を13ポイント上回っている。教育相談等の機会を設け、児童の悩みに迅速に対応している成果であり、今後も児童とのより良い人間関係づくりに努めていく。

○(11)「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問に対する肯定的割合は100%である。今後も自他を大切にし、お互いを大切にして助け合っていくよう、自己有用感を高める活動を行っていく。

○(33)「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の設問に対する肯定割合は88.6%で7.2ポイント、(34)「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の設問でも肯定割合88.6%で、10ポイント県を上回っている。さらに(37)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問では肯定割合88.6%で9.0ポイント、(38)「授業で学んだことを、ほかの学習でいかしていますか」の設問でも肯定割合94.9%で10.1ポイント県を上回っている。これらの結果から、児童は主体的に学習に取り組んでおり、さらに学んだことを生かそうとする意欲が高いことが分かる。引き続き、学習への興味・関心を高める工夫をしたり、学習した内容を他教科や生活場面等と関連付けて、発展的な学習ができるように意識したりしていく。

○(13)「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問に対する肯定割合は84.8%で県より5.3ポイント高い。また(36)「学級の友だちとの間で話し合う活動をつうじて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の設問でも肯定割合91.1%で7ポイント県を上回っている。学校課題で、話し合い活動を取り入れ、友達の意見のよさを認め合う活動を行った成果が表れていると推察される。

●(7)「将来の夢や目標を持っていますか」の設問に対する肯定割合は81.0%で、県の割合を2ポイント下回っている。道徳や総合的な学習の時間などを通して、将来へのプラスのイメージを持たせる工夫を行っていきたい。

●(29)「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT危機を、どの程度使用しましたか」の設問では、週3回以上と回答した割合が50.6%で県の割合を11.1ポイント下回っている。今年度は、学校でもA Iドリルでの学習を積極的に進めたり、自分の考えを伝え合う、まとめる、交流する、振り返るなど様々な場面でパソコンを活用するようにしており、今後も活用の機会を増やしていきたい。

宇都宮市立上戸祭小学校（第6学年）

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の習得を図ることに加えて、指定された用語を用いて文章記述を行ったり、説明したりする活動を意図的に取り入れている。 一人一台端末を利用するなどして、書いた文章を友達と読み合い、互いの良さを見付け、自分の表現に生かしていけるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語では、文章の要点を理解して、条件の字数に合わせて書くことができていた。 自分と違う意見について考えることを楽しいと感じている児童が多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 国語の、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する設問の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識を持って書く力の育成 資料と関連付けて読み取ったり、考えを記述したりする力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から分かることを書き出す活動や、読み取った事実から考えられることを考察する活動を、多教科において取り入れる。 文書や資料を読み、目的に応じて情報を整理し、活用する活動を、繰り返し行う。